



高等学校等におけるICTの活用促進

学校種間連携の強化

英語担当教師及び小学校教師の指導力・英語力の向上

当該地域における英語教育の課題

① 小・中・高等学校の学びの接続に係る課題

学校種間の学びの接続に配慮した指導を行うことが必要であるが、校種間での学習内容や学習到達目標が理解されず、学びの途切れを生じさせる原因となっている。

小学校と連携した中学校66% 高等学校8% 中学校と連携した高等学校13%

② 英語四技能五領域の総合的な育成に向けた指導と評価の改善に係る課題

学習到達目標を公表している学校の割合は、全ての校種において十分でないことから、目標が児童生徒と共有されていない。

学習到達目標の公表：小学校44% 中学校63% 高等学校40%

③ 課題解決に向けた取組の改善と学び続ける教員を支援する体制に係る課題

個々の教員間の英語教育への課題を解決したいという気持ちは強いが、学校や地域によっては研修体制を独自で整えることが困難。また、発信力強化のための英語指導力向上事業の連携協議より、小・中と高校では校内研修の実施体制や、実施方法が大きく異なることが学校種間連携の課題として挙げられた。

【出典】R4英語教育実施状況調査：本県R4

<実施内容>

◆ 児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業【小・中・高】（課題①②）

小・中・高等学校の外国語教育についての相互理解を得ることを目的に、静東地区・静西地区の各小・中学校を研修協力校として各地区1校ずつ計4校及び各地区の異なる高等学校に属する研修員3名ずつ計6名を指定し、運営協議会（4回）、連携推進会議（2回）、校内授業研修会（6回）、公開授業研修会（6回）を通して児童生徒の発信力強化のための授業改善に取り組んだ。連携推進会議では、小・中・高の9年間を見通したCAN-DOリスト作成や、それぞれの公開授業の単元構想について協議を行った。外部専門機関から助言を得ながら、校内研修会及び公開授業研修会を対面とオンラインのハイブリッドで開催し、成果普及を図るとともに、アンケート調査やテスト分析等により、定量的・定性的な評価に基づいた研修を推進した。



◆ 英語教員のためのCAN-DOテスト作成研修【小・中・高】（課題②）

敬愛大学教授向後秀明先生を講師として、CAN-DOリストに基づく言語活動を中心とした授業づくりとその評価の在り方について学んだ。実際実施したペーパーテストを検討することで、効果的な評価方法を確認した。講義・演習は全てオンラインによるライブ配信にて行った。

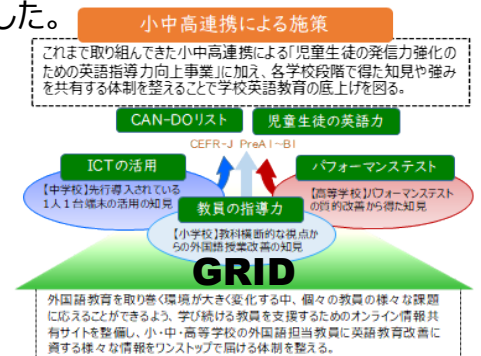
◆ CAN-DOリストに基づく四技能型テスト作成力向上研修【小・中・高】（課題②）

CAN-DOリストに基づいた指導及びその達成状況を把握するために、全県立高等学校で実施したパフォーマンステスト（90事例）およびペーパーテスト（91事例）を回収し、外部委託機関によるCEFRでの分析結果に基づき評価した。また、東京外国語大学教授投野由紀夫氏と根岸雅史氏による、CEFR及びCAN-DOリストに基づく四技能型テストの作成力の向上に関する研修を実施した。

◆ 新時代に対応した英語指導力向上サポート研修（GRID）

【小・中・高】（課題①③）

英語教育改革を進める個々の教員が持つ様々な課題解決に対応し、Googleクラスルームを活用し、外部専門機関によるオンラインセミナー、オンラインオフィスアワー、オンラインゼミナール、小・中・高オンライン協議会、英語教育改善に資する情報交換、ALT等が作成する教材の共有等を行った。



対象	小・中・高のGRID登録者（145名）は、すべての内容に参加可能		
名称	オンラインセミナー	オンラインオフィスアワー	オンラインゼミナール
内容	大学教授や英語教育関係者による、英語教育についての講義や演習。	大学教授に、英語教育について直接相談や質問が可能。	大学教授主導で、課題テーマについて、異校種の教員と協議。
実施回数	9回	6回	2回
参加延べ人数	97人	76人	35人

<成果指標に基づく成果及び検証>

◆ 課題①に対する成果検証

令和5年度英語教育実施状況調査について、それぞれ以下の通り増加しており、特に小学校と連携した中学校は年々上昇傾向にあり、大きく増加している。一方、小学校と高等学校の連携の割合は微増ではあるものの、今後も連携を推進していく必要がある。

- ・ 小学校と連携 中：77%(+11%) 高：13%(+5%)
- ・ 中学校と連携 高：19%(+6%)

◆ 課題②に対する成果検証

令和5年度英語教育実施状況調査について、それぞれ以下の通り増加し、特に、小学校の学習到達目標を公表している学校の割合は、50%と令和4年度を上回った。これは、CAN-DOリストを公開授業研修会で配布したことや、年間を通じて様々な研修を、小・中・高等学校様々な校種を交えて行った結果だと考えられる。また、研究協力校である中学校3年生(177名)を対象に行った、外部テストでは、CEFR A1相当の生徒が、89%となった。学習到達目標の設定と公表により、育成を目指す資質・能力を明確にしたことが主な要因と考えられる。県全体では、36%という結果であったため、今後も英語四技能五領域の総合的な育成に向けた指導と評価の改善のための研修を推進していく必要がある。

- ・ 学習到達目標を設定 小：76%(+8%) 中：100% 高：99%
- ・ 学習到達目標の公表 小：50%(+6%) 中：66%(+3%) 高：51%(+11%)
- ・ 研修協力校中学校3年生 CEFR A1以上 協力校：89%※外部機関テスト受検 県：36%
- ・ 全国学力学習状況調査（英語）中学校正答率 県：46.8%(+1.2%) 全国：45.6%

◆ 課題③に対する成果検証

GRIDを活用し、個々の教員間の英語教育への課題を解決するための企画（17回）を実施した。昨年度に比べて、参加人数も増加し、アンケートからも、GRIDにより、小・中・高の連携は、児童・生徒の継続的な学習指導のために重要であるので、意義があるという肯定的な回答を多く得ることができた。

- ・ GRID参加人数 R5 145名(+64名)
- ・ GRIDは、研修に役立つという肯定的回答 100%

<今後の方向性>

◆ 課題①②③に対して

これまで各学校段階が主体となって実施してきた英語教育改善に資する取組を共有するとともに、英語教育実施状況調査の分析から見えてきた各学校段階の弱みを相互に補完し合う体制を、GRIDにて構築することで、本事業の取組の成果を最大化するとともに、学習指導要領の確実な実施を目指して策定した「静岡県英語教育改善プラン」の推進を図る。

成果普及

- ▶ 学習指導要領に基づく静岡県「小中高連携CAN-DOリスト」
<https://drive.google.com/drive/folders/1i5dDH3XE-RtsoU1ahtNC70CGi0aIMACe?usp=sharing>
- ▶ パフォーマンステストの良問のサンプル
https://drive.google.com/file/d/1JL5GVRhVAWULMn75D6OUf495ngOynqDI/view?usp=drive_link
- ▶ 小・中・高等学校の連携について研究指定校の取組
<https://www.pref.shizuoka.jp/kodomokyoiku/school/kyoiku/1003777/1003759/1003805/1054321.html>